

Versatyle パッケージ

monaqa

2020/3/15

Chapter 1

Versatyle パッケージの概要

Versatyle は、組版用語 SAT_YSF_I において汎用的な用途に使える文書クラス、そしてコマンドをまとめたパッケージ群です。標準では提供されていないコマンドや、標準よりも簡潔なインターフェースを実現するために試験的に開発されています。あくまで試験的なパッケージであり、当分の間安定版にするつもりはありません。仕様変更による互換性のない機能変更やコマンド名の変更などが起きることがあります。

Versatyle パッケージは以下で構成されます。

- それ自身が提供するクラスファイル
 - `versatyle/cls/book` パッケージ
- 様々なコマンドを種類ごとにまとめたいくつかのパッケージ
 - `versatyle/math` パッケージ (第3.1節を参照)
 - `versatyle/table` パッケージ
 - etc.

Versatyle パッケージをインストールすることにより、クラスファイルとパッケージがすべて使えるようになります。Versatyle 文書クラスを用いて文書を作成すれば自動的に Versatyle が提供する様々なコマンドが使えるようになりますが、Versatyle 文書クラスを用いない場合でも、Versatyle パッケージに入っている特定のパッケージをインポートして用いることも可能です。なおファイル構成という意味では、`versatyle/math` パッケージもいくつかのファイルに分かれています。

1.1 バージョン履歴

Chapter 2

Versatyle 文書クラス

Versatyle には，現在 `book` クラスのみが用意されています．

Chapter 3

Versatyle/math パッケージ

Versatyle には、数式を記述するためのコマンドを定義する `versatyle/math` パッケージが入っています。現在は標準の `math` パッケージに足りない機能を補完するという意味合いが強く、標準のパッケージを完全に置き換えるものではありません。そのため、`\int` や `\alpha` といったコマンドは定義されておらず、それらを用いるには標準の `math` パッケージを用いる必要があります。

3.1 Versatyle/math/equation

`versatyle/math/equation` パッケージでは、主に別行立て数式を組むための枠となるコマンドを提供します。例えば以下のような数式を書くことが出来ます。

$$y = x^2 + 1 \tag{3.1.1}$$

$$z = (x^2 + 1) \tag{3.1.2}$$

$$y = x^2 + 1 \tag{3.1.3}$$

$$y = x^2 + 1 \tag{3.1.4}$$

$$y = x^2 + 1 \tag{3.1.5}$$

$$y = x^2 + 1 \tag{3.1.6}$$

$$y = x^2 + 1 \tag{3.1.7}$$

$$z = (x^2 + 1) \tag{3.1.8}$$

$$y = x^2 + 1 \tag{3.1.9}$$

$$z = (x^2 + 1) \tag{3.1.10}$$

$$z = (x^2 + 1) \tag{3.1.11}$$